



若宮丸漂流民の足跡と彼らが見たもの

★印の図版はすべて宮城県図書館所蔵の「環海異聞」写本より

年	出来事
1807	文政12年(一八二九) 4月12日 左平、寒風で死去(67歳)
1806	文化11年(一八一四) 7月29日 津太夫、寒風で死去(70歳)
1805	文化10年(一八一三) 9月19日 善六、ゴロウニ事件解決交渉のロシア側通訳として箱館に上陸
1804	文化4年(一八〇七) 4月 大槻玄沢「環海異聞」を藩主の伊達周宗に呈上
1803	文化3年(一八〇六) 2月下旬 取り調べを終え、漂流民4人、江戸を発ち故郷に帰る
1802	文化2年(一八〇五) 3月10日 漂流民4人、日本側に引き渡される
1801	文化元年(一八〇四) 3月27日 マルケサス諸島着
1800	享和3年(一八〇三) 3月7日 漂流民13人、サンクトペテルブルグに向け出発
1799	享和2年(一八〇二) 7月22日 ロシア政府、世界周航船ナジェージュダ号と僚船ネフアの派遣を正式決定
1798	寛政11年(一七九九) 2月28日 船親父の吉郎次、死去
1797	寛政11年(一七九九) 11月27日 若宮丸船主末沢屋平之丞、石巻神宮寺で七回忌を行い、供養碑を建立
1796	寛政8年(一七九六) 1月24日 儀兵衛、善六、辰蔵、イルクーツク着
1795	寛政8年(一七九六) 3月 善六、辰蔵、洗札を受けロシアに帰化
1794	寛政7年(一七九五) 4月3日 ナアツカ出港
1793	寛政5年(一七九三) 11月27日 若宮丸、江戸を目指し石巻出港

若宮丸漂流民年表
※日付は和暦(旧暦)